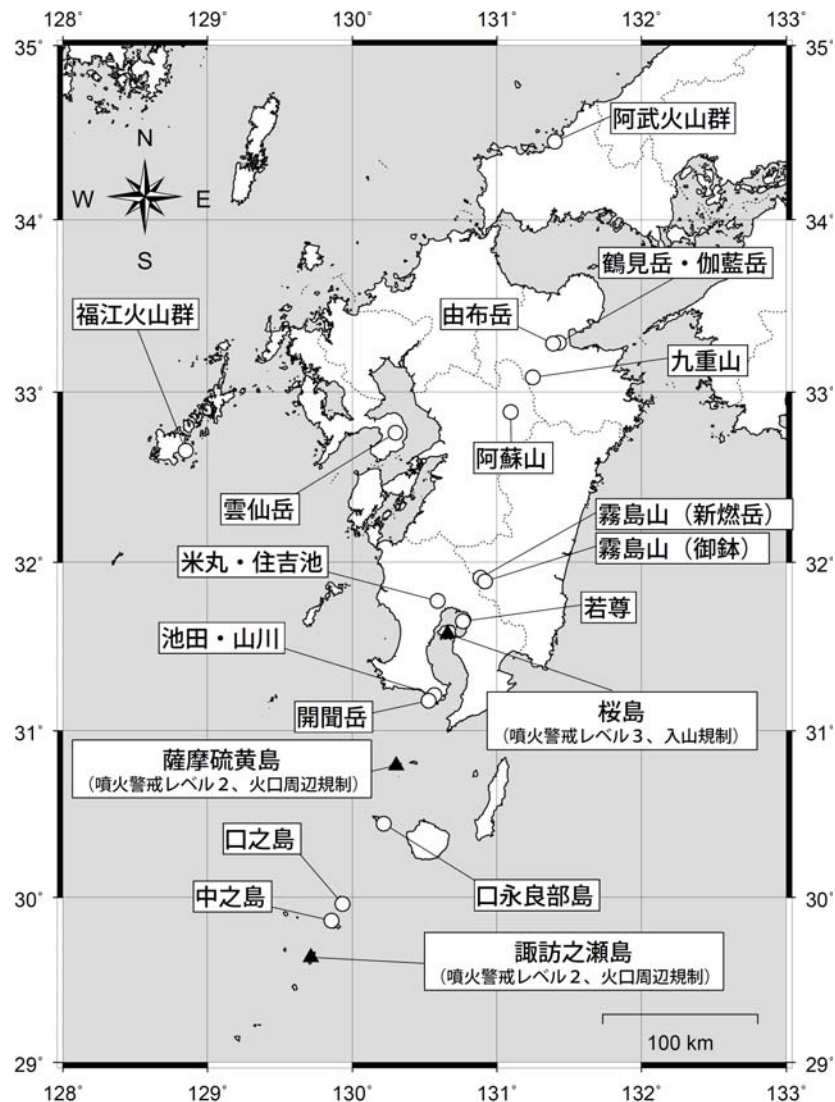


管内月間火山概況（平成 22 年 1 月）

福岡管区気象台
火山監視・情報センター

噴火警報及び噴火予報の発表状況（1月31日現在）

- | | |
|-------------------------|--|
| 火口周辺警報（噴火警戒レベル3、入山規制） | ：桜島 |
| 火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制） | ：薩摩硫黄島、諏訪之瀬島 |
| 噴火予報（噴火警戒レベル1、平常） | ：九重山、阿蘇山、雲仙岳、霧島山（新燃岳）、霧島山（御鉢）、口永良部島 |
| 噴火予報（平常） | ：阿武火山群、鶴見岳・伽藍岳、由布岳、福江火山群、米丸・住吉池、若尊、池田・山川、開聞岳、口之島、中之島 |



凡例
▲：噴火警報発表中の火山 ○：その他の火山

※噴火警戒レベルは、地域防災計画等でその活用が定められている火山に導入されています。

この管内月間火山概況は福岡管区気象台ホームページ (<http://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>) や気象庁ホームページ (<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>) でも閲覧することができます。次回の管内月間火山概況（平成 22 年 2 月分）は平成 22 年 3 月 9 日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、海上保安庁、九州地方整備局大隅河川国道事務所、国土地理院、東京大学、京都大学、九州大学、鹿児島大学、独立行政法人防災科学技術研究所、独立行政法人産業技術総合研究所、大分県、鹿児島県及び阿蘇火山博物館のデータも利用して作成しています。

各火山の活動状況及び予報警報事項

主な火山の活動及び予報警報事項の状況は以下のとおりで、予報警報事項に変更はありません。

九重山くじゅうさん〔噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）〕

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

阿蘇山あそさん〔噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）〕

中岳第一火口では、南側火口壁の噴気孔で火炎現象及び赤熱現象を引き続き観測しました。

その他の火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められませんが、火口内では土砂や火山灰の噴出する可能性があります。また、火口付近では火山ガスに対する注意が必要です。

雲仙岳うんぜんだけ〔噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）〕

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

霧島山きりしまやま（新燃岳しんもえだけ）〔噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）〕

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

火口内及び火口の外の西側斜面では引き続き噴気がみられることから、火口内では火山灰等の噴出に警戒が必要です。

霧島山きりしまやま（御鉢おはち）〔噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）〕

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

桜島さくらじま〔火口周辺警報（噴火警戒レベル3、入山規制）〕

昭和火口では、噴火回数が多い状態が続いています。

2009年6月下旬以降活発化した桜島の噴火活動は、10月頃から更に活発となっています。

今後、更に火山活動が活発化する可能性が高いと考えられますので、火山活動の推移に注意する必要があります。

昭和火口及び南岳山頂火口から2km程度の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒が必要です。風下側では降灰及び小さな噴石（火山れき）にも注意が必要です。降雨時には土石流に注意が必要です。

薩摩硫黄島さつまいおうじま〔火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）〕

硫黄岳山頂火口の噴煙活動はやや高い状態で経過しました。

火山性地震は、2009年3月下旬以降やや多い状態が続いています。

硫黄岳山頂火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されますので、火口から概ね1kmの範囲では噴火に対する警戒が必要です。風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石にも注意が必要です。

口永良部島くちのえらぶじま〔噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）〕

新岳火口直下を震源とする火山性地震が一時的にやや増加しました。

その他の火山活動に特段の変化はなく、新岳火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められませんが、火口内では引き続き噴気がみられており、火山灰等の噴出する可能性があります。また、火口付近では火山ガスに対する注意が必要です。

諏訪之瀬島すわのせじま〔火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）〕

御岳火口では、今期間も爆発的噴火を含む噴火が断続的に発生しました。

火山性地震及び火山性微動は消長を繰り返しながらやや多い状態が続いています。

御岳火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されますので、火口から概ね1kmの範囲では弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要です。風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石にも注意が必要です。

上記以外の火山の活動状況に変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められず、予報警報事項に変更はありません。